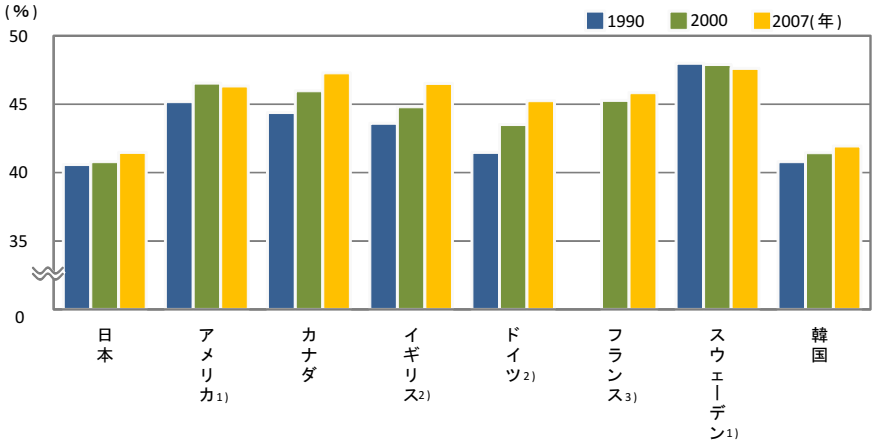
3-3　就業者に占める女性の割合



グラフの具体的な数値及び資料出所については，「第3-4表　性別・職業別就業者数」(p.107)を参照。
(注) 1) 2007年は2006年の値。
2) イギリスの1990年は1991年の値，2007年は2005年の値，ドイツの1990年は1993年の値。
3) 2000年は2003年の値，2007年は2005年の値。

就業者に占める女性の割合は，全体としてみれば1990年から2007年にかけて上昇傾向にある。ただし，スウェーデンは1990年時点で既に女性就業者の割合が高水準で，以降横ばいの推移となっており，またアメリカは1990年から2000年にかけて増加した後，ほぼ同水準での推移となっている。

上のグラフをみると，日本は主な先進国のなかで女性の割合が最も低いのがわかる。「2-5 女性年齢階級別労働力率(p.57)」のように，日本においては，出産・育児等のために特定の階層で女性の労働力率が低下するというM字カーブが現在でもみられることが，ひとつの要因として挙げられる。

（参考）　就業者に占める女性の割合(%)

	1990	2000	2007 (年)
日本	40.6	40.8	41.5
アメリカ1)	45.2	46.5	46.3
カナダ	44.4	46.0	47.3
イギリス2)	43.6	44.8	46.5
ドイツ2)	41.5	43.5	45.3
フランス3)	—	45.3	45.8
スウェーデン1)	48.0	47.9	47.6
韓国	40.8	41.4	41.9

表中の注番号はグラフ(注)に準ずる。